

順天堂医院ニュース 2014 NO.48



仁の養生訓 (食中毒編)

- 一、清潔な手と調理場が、おいしさと安全の決め手なり
- 二、熱湯とサラシ粉は、これ一番の消毒法なり
- 三、食材ごとにまな板と包丁を洗うべし
- 四、肉類(特にレバー)は、良く火を通して食すべし
- 五、生野菜・果物から始め、その後に肉・魚を調理すべし
- 六、冷蔵庫内を制す者は、食の安全を制す
 - (イ) 詰め込みすぎは、食中毒の素、省エネの敵と心得るべし
 - (ロ) 分別保管が、食品汚染と二重買いの防止の決め手
 - (ハ) 水分が滴る物は下に、乾物、調理しないで食べる物ほど上に
- (ニ) 野菜は野菜室に保管すべし
- 七、調理後は、すみやかに盛り付けて食卓に並べるべし
- 八、温かいものは温かく保ち、冷たいものは冷たいまま保つべし
- 九、ごちそうさまのあとは、食器をすみやかに片づけるべし

小児科・小児外科・周産期母子メディカルセンターについて

24 時間快適で安心できる分娩のサポートを

諸外国では一般的に行われている無痛分娩ですが、日本ではまだ十分に普及していません。その原因として「お腹を痛めて産んだ赤ちゃん」などの表現が用いられるように、日本では陣痛に耐えて産むことを美德とする風潮があることが指摘されています。しかし海外で出産される日本人の多くが無痛分娩を選択して良好な母子関係を築かれている事実は、日本で出産する女性だけが痛みに耐える必要がないことを如実に物語っています。



産科・婦人科 教授
板倉 敦夫



麻酔科・ペインクリニック 教授
角倉 弘行

日本で無痛分娩が普及しない最大の理由は、一施設当たりの分娩数が少ないために無痛分娩を担当する麻酔科医を常時配置することが困難であるからだと思います。日本の多くの病院ではこのような状況で無痛分娩を行うための苦肉の策として、無痛分娩を希望する妊婦に対しては計画分娩を勧めたり、麻酔科医ではなく産婦人科医が無痛分娩を担当したりしてきました。しかし安全で質の高い無痛分娩を提供するためには産科麻酔に理解のある麻酔科医の関与は不可欠です。

このたび、順天堂医院では産婦人科と麻酔科が協力して 24 時間体制で自然陣発後の無痛分娩に対応するサービスを開始いたしました。特に初産婦さんでは、自然の陣痛を待ってから入院していただき妊婦さんが鎮痛処置を希望した時点で無痛分娩を開始することで、より順調な分娩の進行が期待できます。もちろん分娩経過が早い可能性の高い経産婦さんなどには計画分娩での無痛分娩にも対応していますが、24 時間体制で無痛分娩に対応できますので、実際に無痛分娩を受けるかどうかは分娩経過中に決めていただくことも可能です。また産科麻酔に理解のある麻酔科医が 24 時間体制で配置されているので、緊急の帝王切開になった場合でも安心です。

日本で最初の無痛分娩は、1916 年に与謝野晶子が五男を順天堂医院で分娩した際に施されたとの記録が残っています。それから 1 世紀近くが経ちましたが、ようやく 24 時間体制で無痛分娩に対応することが可能となりました。産婦人科外来内に産科麻酔外来を開設しましたので、順天堂医院で分娩予定の妊婦さんで、無痛分娩に興味のある方の受診をお待ちしています。

重症心不全に対する和温療法

循環器内科 横山 美帆

1989年、ある重症心不全患者さんの「もう一度、お風呂に入りたい」という言葉が、鄭忠和先生（和温療法研究所所長）の心を動かし、心臓に対する入浴効果の研究が始まりました。入浴は水圧により心臓に対して負荷となりますが、温熱はその血管拡張



作用により心臓に対する負荷を軽減します。そこで、遠赤外線サウナ装置を用いた和温療法が、心不全に対



教授
代田 浩之



助教
横山 美帆

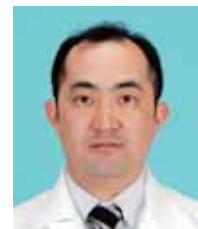
する新しい治療法として開発されました。実際には60℃に均等加温された遠赤外線サウナ室（装置）に15分間入り深部体温を1.0～1.2℃上昇させた後、ベッド上で毛布に包まり30分間の安静保温を追加する治療法です。脱水予防のため、和温療法後には発汗量に見合う飲水を行います。現在、心不全患者さんの有効な治療法として先進医療に承認され、当院を含む多施設で共同研究が行われています。和温療法の普及と患者さんのために1日も早い保険適応が望まれます。

術前抗がん剤治療のハーセプチン施行について

乳腺科 田辺 真彦



教授
齊藤 光江



准教授
田辺 真彦

発生した当初は、乳管内にとどまる乳がん（非浸潤がん）が、乳管壁を破ることを浸潤と呼んでいます。浸潤した乳がんは、血管やリンパ管に入り、遠くに飛んでいくこと（転移）があります。手術前に『リンパ節転移』が確認された乳がんでは、骨や肝臓や肺に微小転移を起こしている可能性が高いと考えられ、乳房の手術だけでは、乳がん微小転移を体の中に残してしまうかもしれません。そこで、『乳がん微小転移』を根絶するためにまず行う全身治療が『術前抗がん剤治療』です。HER2高発現タイプの乳がんでは、HER2刺激による乳がん増殖をブロックする『ハーセプチン®』を抗がん剤と併用します。治療は外来通院を基本としています。ハーセプチン®治療は『分子標的治療薬』に分類され、術前と術後を合わせて1年間の投与が推奨されています。

発生した当初は、乳管内にとどまる乳がん（非浸潤がん）が、乳管壁を破ることを浸潤と呼んでいます。浸潤した乳がんは、血管やリンパ管に入り、遠くに飛んでいくこと（転移）があります。手術前に『リンパ節転移』が確認された乳がんでは、骨や肝臓や肺に微小転移を起こしている可能性が高いと考えられ、乳房の手術だけでは、乳がん微小転移を体の中に残してしまうかもしれません。そこで、『乳がん微小転移』を根絶するためにまず行う全身治療が『術前抗がん剤治療』です。HER2高発現タイプの乳がんでは、HER2刺激による乳がん増殖をブロックする『ハーセプチン®』を抗がん剤と併用します。治療は外来通院を基本としています。ハーセプチン®治療は『分子標的治療薬』に分類され、術前と術後を合わせて1年間の投与が推奨されています。

看護部ニュース

情報管理担当看護師の活動について

情報管理という言葉は、聞き慣れない方も多いかと思います。医療のIT化が急速に進む中、携帯端末やパソコンなどを用いた「医療情報システム」という存在は、看護師にとっても必要不可欠なものになりました。医療情報システムはとても複雑な仕組みがあるため、その取り扱いが容易ではありません。そこで当看護部では、「情報管理担当者」を専任として配置し、私は2013年度より担当しております。主な業務は、現場の看護師が看護計画や看護記録を入力するシステムを修正・刷新し、医療安全を重視した最適な方法で運用できるよう支援することです。また、システム上のエラーへ対応することもあります。さらには、さまざまな看護データから看護ケアの質を向上するために分析を行い、院内のみならず他大学病院との教育・研究データとして活用を進めています。



看護部 看護師長 玉本 和紀（情報管理担当）

栄養部ニュース

食品の冷凍保存について

【基礎知識】

何でも冷凍してしまえば大丈夫なんて思っていませんか？

冷凍保存といっても雑菌の繁殖を完全に抑えることはできません。保存する際には手をよく洗うことはもちろんですが、①食材の水分をよくとる②密封する③急速冷凍する④食材を薄く伸ばす⑤再冷凍を避けるなどの注意が必要です。

保存期間の目安は肉・魚で2～3週間、野菜で1ヶ月くらいです。冷凍しても賞味期限は無限になりません。特に夏場は細菌類が増えるので、なるべく早く食べることを心がけましょう。

【豆知識】

冷凍すると旨みが増し、栄養価がアップする食材があります。それは、「きのこ」と「しじみ」です。きのこにはグアニル酸という旨み成分が含まれており、冷凍することで細胞が傷つき旨み成分が出やすくなります。また、しじみには肝臓の働きを保ち疲労回復効果が期待できるオルニチンというアミノ酸が多く含まれており、しじみを冷凍することでオルニチンが増加することが知られています。



栄養部 牧田 寿美子（管理栄養士）

薬剤部ニュース

腎臓病と薬の関係

腎臓とは、自分の体を正常な状態に保つ働きをもつ、大切な臓器です。

腎臓は、そらまめのような形をした握りこぶしくらいの大きさの臓器で、腰のあたりに左右対称に2個あります。腎臓の機能は、①老廃物を体から排泄させる機能 ②血圧調節する機能 ③体液、イオンバランスを調節する機能 ④赤血球を造る機能 ⑤骨の発育に関わる機能 の5つに大別されます。今回はそのうちの①の機能、老廃物を体から排泄させる機能についてご説明します。

腎臓は血液を濾過して老廃物や塩分を尿として体の外へ排泄し、また、体に必要なものは再吸収し、体内にとどめる機能をもっています。腎臓の機能が悪くなると尿が出なくなり、老廃物や毒素が体に蓄積し尿毒症になってしまいます。そこで、老廃物を排出させる機能を助ける薬が必要となります。“クレメジン”という薬は、腸の中で尿毒症の原因となる毒素を吸着し、体内に吸収させることなく、便とともに排泄させる働きがあります。そのため、他の薬と一緒に服用すると、治療に必要な薬も吸着してしまい、体内への吸収を妨げてしまいますので、目安として他の薬を服用後（食後）1～2時間、間隔を空けてクレメジンを服用してください。

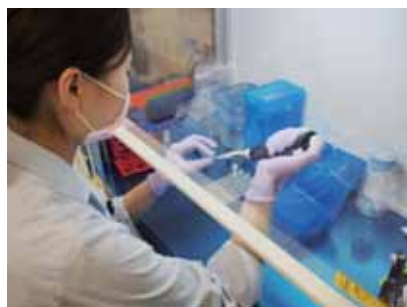
次回は、②、③について説明します。



臨床検査部ニュース

遺伝子検査について

人間の体は、細胞によって成り立っています。細胞の中にある核には、染色体が収められていて、染色体を作り上げている DNA という物質が遺伝子として働きます。遺伝子とは、人間の体を作る設計情報です。遺伝子は親から子へ受け継がれますが、がんなどの病気では、遺伝子の突然変異が原因となることがわかっています。



遺伝子検査ですべての病気がわかるわけではありませんが、さまざまな病気の診断や治療に役立てることが出来ます。例えば、細菌やウイルスの遺伝子を調べることで、感染しているかどうかわかります。また、がんの原因となる遺伝子の検査は、診断や薬が効くかどうかの予想に役立ちます。さらに、遺伝性疾患を診断するうえで、遺伝子検査はとても大切です。遺伝性疾患の遺伝子検査は、遺伝カウンセリングでの十分な説明のあとで行われます。

（詳しくは、当院の臨床検査部ホームページに掲載してありますのでご参照ください）

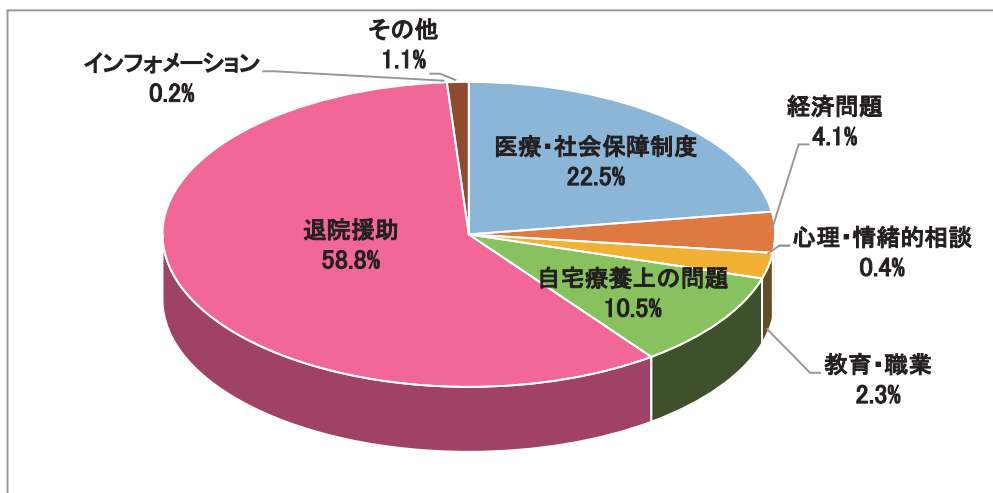
当院の臨床検査部ホームページ

http://www.juntendo.ac.jp/hospital/support/rinsyo_kensabu/index.html

医療福祉相談室ニュース

☆平成 25 年度に当室で受けた相談内容の割合は、次のとおりです。

≪ 平成 25 年度 相談内容別件数 945 件の内訳 ≫



昨年度、当室で新しく受けた相談件数は 945 件でした。

一番多い相談内容は、**退院に関する援助**で、相談件数の過半数を占めました。当院での入院治療を終えられた患者さんについて、リハビリテーション専門病院や療養型病院などへの転院を検討するためのご相談をお受けしました。

次いで多かったのは、**医療・社会保障制度**で、公的な医療費助成制度や、介護保険、障害者手帳などの福祉制度の利用についてのご相談です。

当院にはいくつかの相談部門がありますが、私たち「医療福祉相談室」では、このように療養生活に伴って生じるさまざまな心配事について、**ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）**が、患者さんやご家族と一緒に考えながら解決へのお手伝いをしています。ご相談を希望される場合は、**事前にご予約**ください。

医療福祉相談室 TEL : 03-5802-1207 (直通)

順天堂医院の今昔

2014年4月10日に学校法人順天堂は、両陛下をお迎えして創立175年記念式典を挙行了しました。175年前に創立者佐藤泰然が江戸の薬研堀(東日本橋)に蘭方外科塾を開いたのです。残念ながら、当時の塾の全貌を知ることはできませんが、その頃、泰然が翻訳した『痘科集成』(天然痘と予防法を述べた書)が残っています。天然痘のかさぶたを使って予防接種をしたのです。ジェンナーの種痘法が日本に伝わったのはそれから10年余たった1849年でした。

1843年、佐藤泰然は佐倉に移って順天堂塾を開いて、門人らとともに外国の外科書を参考にさまざまな外科手術に挑戦しました。その記録『外科実験』や当時のエピソードが今に伝わり、佐倉順天堂で他に類を見ない手術が行われていたことを知ることができるのです。



和田泰然 訳述『痘科集成』



関寛齋 記『外科実験』

順天堂大学医学部医史学研究室
特任教授 酒井シヅ

順天堂医院理念

順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し人間としての尊厳および権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。

基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する。
5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。更に災害時の拠点病院として地域医療に貢献する。
6. 省エネ、エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。

すべての医療従事者は、この実現のために取り組むものとする。

「患者さんの権利」

医療は患者さんと医療機関との十分な信頼関係で成り立っております。順天堂医院では、すべての患者さんに次の権利があると料し、尊重した医療を行います。

1. 良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
2. 一人ひとりの人格や価値観などが尊重された医療を受ける権利があります。
3. ご自分の希望や意見を述べる権利があるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
4. 理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
5. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報を守られる権利があります。

「患者さんへのお願い」

順天堂医院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、適切な医療の提供にご協力くださいますようお願い申し上げます。

1. 良質な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話ください。
2. 医療に関する説明を受けられてご理解できない場合は、納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールは、お守りください。また、治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう配慮に努めております。他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもあり、留学生や医学生・看護学生などが見学実習・研修を行っておりますことをご承知いただき、ご理解とご協力をお願いいたします。

順天堂大学医学部附属順天堂医院
〒113-8431 文京区本郷3-1-3
TEL : 03-3813-3111(代表)

編集 病院広報委員会
発行 医療サービス支援センター
地域医療連携室(平成26年7月発行)

ホームページ
<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>

順天堂医院

検索

